

学年	教科等	単元名	日時
第4学年	国語科	つながりを考えながら想像したことを音読劇で表そう[教材:「木竜うるし(人形げき)」]	平成30年2月2日(金)公開授業I

### 本実践の主張

#### 【問題意識や目的意識を持続させる単元構成の工夫】

単元の導入で、ある演劇の一部を映像で視聴させた後、その映像を基に教師が書き起こした脚本を提示し、感じたことを発表させる。それにより、脚本の特徴、場面・台詞・ト書きのつながりの大切さに気付き、自分たちも脚本で表していきたいという学習意欲を高められるようにする。また、毎時間、捉えた内容を基にした音読を位置付けることで、脚本を音読劇で表すという単元をとおした目的意識をもてるようにする。

#### 【価値ある言語活動の工夫】

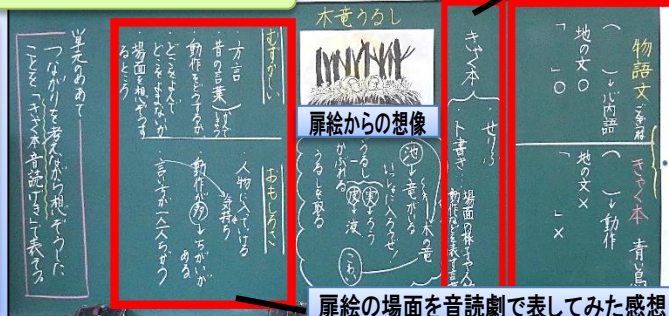
権八の気持ちの変化について話し合ったことを基に、グループで脚本用紙に声の強弱や読む速さ、ト書き等を書き込み、音読の仕方を確認させることで、捉えた内容を音読で表せるようにする。また、グループで藤六役と権八役を分担し、役割を交代しながら音読させることで、音読の仕方を全員が共有できるようにする。

#### 【「何が身に付いたか」をふりかえらせる手立て】

気持ちの変化を話し合った後、自分の考えを書き、導入の自分の考えと比較させることで、考えの深まりや変容を捉えられるようにする。また、終末で数ペアの音読を紹介し感想を伝え合わせたり学習の感想を書かせたりすることで、つながりを考えながら想像したことを表せるようになったという実感をもてるようにする。

#### 【問題意識や目的意識を持続させる単元構成の工夫】

以下の単元構成の工夫により、「自分たちも脚本を音読劇で表していきたい!」「どのように音読劇で表せばいいのだろう」という意識を持続できるようにした。  
**【生み出す段階】** 物語文と脚本の特長の比較、脚本音読劇の体験、単元のゴールの設定  
**【挑む段階】** 学習問題の設定、読み取ったことを生かしたミニ音読劇の実施  
**【生かす段階】** 脚本音読劇の実施



#### 「脚本」の確認

#### 単元の導入

初めての脚本を音読劇で表していくよ!

物語文と脚本との比較(※脚本は教師が書き起こした「青い鳥」)

#### 【価値ある言語活動の工夫】

身に付けたことばの力「つながりを考えながら想像したことを表す力」に迫るため、毎時間、捉えたことを生かしたミニ音読劇を位置付けた。また、これにより単元をとおした目的意識をもてるようにした。

#### 本時(権八の気持ちの変化をミニ音読劇で表す)

#### 第1場面の「あっぱは。」の気持ち

#### 第3場面の「あっぱは。」の気持ち

権八の気持ちがどのように変わったかが分かれば、今日の「あっぱは。」は読めそうですね!

本時(第4場面)の「あっぱは。」に対する自分の考えをもつ

子どもの考えとその根拠となる叙述

#### 話し合ったことを基にしたミニ音読劇



脚本用紙への書き込み

権八の気持ちの変化が伝わるように、脚本用紙に音読記号やト書き等を書き加えてみましょう!

#### ミニ音読劇(権八の気持ちの変化)



よし、気持ちの変化を伝えるぞ!

権八のいたずらっぽさ、明るい感じが伝わってきました。

発表後の感想交流

#### 【「何が身に付いたか」をふりかえらせる手立て】

これまでの単元同様、一単位時間の終末の段階で、4つの観点の自己評価によってふりかえらせることで、子ども自身が学習で身に付けたことを実感できるようにした。

単元	身に付けたことばの力	つながりを考えながら想像したことを表す力	学習の振り返り	学習の振り返り
木竜うるし	①	②	③	④

ミニ音読劇をとおして、読み方だけでなく、権八の気持ちの変化を捉えられたぞ!

#### 授業をふりかえって・・・

- 「読み取り→言語活動」の展開では、十分な言語活動の時間を確保することが難しい。今後は、導入のシンプル化、読み取りの焦点化に加え、言語活動を単元、一単位時間において、どの段階でどのように位置付けていくかをさらに模索していく必要がある。
- 学習問題に対する自分の考えを書かせることで、考えをもって学習に参加することができていたのではない。今後は、考えをもたせるだけでなく、学習をとおして、自分の考えがどのように変容したかを捉えられる時間を大切にしていきたい。

①できるようになったこと・わかったこと、②学習で学んだことをどのように生かしたか、③「なるほど!」と思った〇〇さんの考え、④その他

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

# 授業実践計画

## ○ 指導計画（13 時間）

- |                                     |        |
|-------------------------------------|--------|
| (1) 単元のゴールの姿から単元のめあてを設定し、学習計画を立てる。  | 2 時間   |
| (2) 新出漢字と語句の意味を確認し、教材の内容や構成の大体を捉える。 | 2 時間   |
| (3) 場面の様子や人物の気持ち等を想像して音読で表す。        | 5 時間   |
| ・ 藤六と権八の性格、関係                       | 2      |
| ・ 権八の気持ちの変化                         | 1 (本時) |
| ・ 最終場面の藤六と権八                        | 1      |
| ・ 作品全体の構成と描かれている人物像                 | 1      |
| (4) 教材や関連図書で「きやく本音読げき」を行い、感想を伝え合う。  | 4 時間   |

## ○ 本時の目標

権八の3つの「あっはっは。」という台詞を基に、場面と場面、台詞と台詞、台詞とト書きのつながりを考えながら、権八の気持ちの変化を捉え音読で表すことができる。

## ○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <p>○ 台詞の提示と比較 権八の3つの「あっはっは。」：第1場面、第3場面、第4場面 (本時)</p> <p>○ 本時の学習問題 権八の気持ちはどのように変わったのだろうか。</p>	<p>○ 前時までの2つの台詞と気持ちを確認した後に音読させ、本時の台詞を提示する。そして、「どう読めばいい？」と問い、実演や説明を行わせることで、読み方が違うことを捉え、学習問題に結び付けられるようにする。</p>
<p>2 本時の学習問題に対する自分の考えをもつ。</p> <p>○ 学習範囲の音読 (P141 上04～P142 上012)</p> <p>○ 学習問題に対する自分の考え</p>	<p>○ 学習問題に対する自分の考えを書かせることで、権八の気持ちの変化に対する考えを明確にし、主体性のある話し合いにつなげられるようにする。</p>
<p>3 権八の気持ちの変化について話し合う。</p> <p>○ 藤六に対して 【気持ちの変化】バカにしていた→見直す、認める 等 【根拠】「おめえは氣立てのええやつだなあ。」</p> <p>○ うるしに対して 【気持ちの変化】ひとりじめする→みんなで分ける 等 【根拠】「村のものを連れてこよう。」 「一人残らず連れてこよう。」</p>	<p>○ 権八の気持ちの変化を発表する際、「どの言葉からそう考えたの？」と問うことで、台詞を根拠にして考えることができるようにする。</p> <p>○ 権八の気持ちの変化について話し合った後、権八の気持ちはどのように変わったのかという自分の考えを書き、導入の自分の考えと比較させることで、考えの深まりや変容を捉えられるようにする。</p>
<p>4 話し合ったことを基に音読の仕方を考え、権八の気持ちの変化が表れるように音読する。</p> <p>○ 音読の仕方</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうだ藤六、おらと二人で山分けせんか。</p> <p>……。 (考える)</p> <p>……。 (藤六を見つめて考える)</p> <p>(考えていたが) 藤六よ。</p> <p>おめえは氣立てのええやつだなあ。 ←語尾を上げる</p> <p>(考えて) よし、村のものを連れてこよう。 (明るい表情)</p> <p>うん、一人残らず連れてこよう。 (力強く) 等</p> </div> <p style="text-align: right;">↑ 気持ちの変化 ↓ → 転換 ←</p> <p>※ 上記は、権八の台詞。ゴシック体は、教科書の表記。明朝体は、子どもが書くと考えられる書き込み例。脚本用紙は、上記枠内のみ。</p>	<p>○ 話し合ったことを基に、グループで一つの脚本用紙に声の強弱や読む速さ、ト書き等を書き込みながら音読の仕方を確認させることで、捉えた内容を音読で表すことができるようにする。</p> <p>○ グループで藤六役と権八役を分担し、役割を交代しながら音読させることで、内容を捉えた音読の仕方を全員が共有できるようにする。</p> <p>○ 状況に応じて、次の手立てを講じることで、脚本を音読劇で表すという目的意識を持続させながら音読に取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動作化させる。見せ合わせる。つぶやきを拾い称賛する。等</li> </ul>
<p>5 本時の学びをふりかえる。</p> <p>○ 音読の発表 (数ペア)</p> <p>○ 本時の学習の感想 (何が身に付いたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「気持ちの変化が分かると音読が変わったよ。」</li> <li>・ 「『あっはっは。』の読み方が分かったよ。」等</li> </ul>	<p>○ 数ペアの音読を全体に紹介し感想を伝え合わせたり、学習の感想を書かせたりすることで、つながりを考えながら想像したことを表現できるようになったという実感をもてるようにする。</p>

## ○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

最後の「あっはっは。」から、藤六やうるしに対する権八の気持ちが変わっていることが分かったね。権八の明るく優しい感じがするね。そんな気持ちの変化が表れるように、藤六の台詞とのつながりや、権八の台詞の表し方を考えて音読するといいいね。

【読む能力】



○ 教材分析

五	四	三	二	一	前書き	場面	主題
<p>ふちのそば</p> <p>P144013 ← P142上013</p>	<p>ふちの底</p> <p>P142上012 ← P139下05</p>	<p>ふちのそば</p> <p>P139下04 ← P135下01</p>	<p>ふちの底</p> <p>P135上015 ← P134下01</p>	<p>深いふちのそば</p> <p>P134上015 ← P13001</p>	<p>藤六（その他の人物）</p>		
<p>・そうか。 ・あつはつは。 ・はあ、やつはり、ちつと気の毒だのう。 ・やれ権八、おったまげるのはまだ早いぞ。 ・あつはつは、おういおういみなしゅう、はまうはまう、かけ足だあ。権八が真つ先だもつたぞうい。</p>	<p>・それともそうだな。あつはつは。 ・そらちつと気の毒でないか。 ・一人で取るさ。 ・おらどうでもええ。おめえがほしけりや ・一人取るさ。</p>	<p>・作りもんか？あらあ。なら初めからそう言ええええに。 ・なあんだ、そうかあ。なら、おらもうべん見てくるわ。 ・作りもんと聞いたらおそろしゅうもどつてもたいたいで動きやせんわ。 ・ちよつと見てこんか。 ・いやだじようぶだ。まあ、ちよつと来てみれちゅうに。（権八を引つぱる。） ・ええから来てみい。</p>	<p>・権八一人残しといでは気の毒だ。何も知らんでもぐつたんではあるまいかな。 ・ばか正直め、さうそくもぐつていきよつた。（略）そでおら様 ・あつはつは。あつはつは。 ・た、た、たいへんだ。りゅ、竜が生きたあ。大きな口を開けておらをにらんたあ。こ、こらどうしたこつちや。わあい。 ・わあい。（しをぬかす。） ・あの竜はなあ、実はおらが作った木の竜だ。 ・二人ぎりであのうるしを取ろうと思つて、あの竜を作つて番人にしといた。 ・お、おい、やい。やあこら、どうしたらええだ。あいつ一口に食われてしまふが。……ああ、おら悪いことをした。おらがよく出したばつかりに、こらたいへんなことになつてしまつた。こらきつと神様がおこつて、あの木の竜にたましいを入れなかつたにちがいないわ。……けど、やつぱりあのうるしはおし ・い、いやだちゅうに。お、おら、お、おそろしいでよ。 ・おい、おい、こ、こら、放さんか。おい。</p>	<p>・こら藤六。 ・おめえのこぎりよかせ。おらのはちつとも切れん ・おらの切つたえだも、みんなおめえがしよつて山を下りるだぞ。こんな切れるのこぎり持つとるなら、おらの分も切つてくれ。 ・はよう入つて取つてこんか。 ・あつはつは（略）あはか正直といつしよに仕事をすると、たいていのはあれがやるで大きに楽だ。あつはつは。 ・おめえ、このうるしのこと、だれにも告げやならんぞ。 ・（ふちをのぞきこんで大笑い。）あつはつは（略）ただ藤六のやつがじまもんだな。（略）おらがそつくりひとりじめだ。</p>	<p>素直・優しい・温厚</p>	<p>藤六（中心となる人物）</p>	<p>欲張りで藤六に対して横柄な態度であつた権八が、自分が招いた災いに対する藤六の勇ましき、優しきや誠実さにふれることで、藤六のよきに気付き、相手を思いやる気持ちが高まつていく作品。</p>
<p>相手を思いやる心</p>	<p>素直・優しいさ・正直</p>	<p>無欲・優しい・誠実</p>	<p>勇敢・冷静</p>	<p>横柄・怠け者・欲張り</p>	<p>権八（中心となる人物）</p>	<p>指導のポイント （言語活動）</p>	
<p>○ 二人の性格や関係は、第一場面とどのように変わったか。 ○ 作品全体をふりかえつて、権八の気持ちの変化や二人の関係が伝わるように、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 二人の性格や関係は、どのように書かれているのか。 ○ 「あつはつは」の権八は、どんな気持ちなのか。 ○ 権八の気持ちの変化を表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 権八の藤六に対する考え方は、どのように変わったか。 ○ なぜ、権八の気持ちは変化したのか。 ○ この場面の最後にある「あつはつは」の権八は、どんな気持ちなのか。 ○ 権八の気持ちの変化を表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 第一場面と第三場面の「あつはつは」の権八は、どんな気持ちなのか。 ○ なぜ、権八は「不思議」と何度も口にしてるのか。 ○ 二人の様子は、どのように書かれているか。 ○ 第一場面に書かれている二人の様子と、どのように違うか。 ○ 第一場面との違いを表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 権八は何をしたか。また、なぜ、そのようなことをしたのか。 ○ 卜書きと権八の台詞だけが、どんなことを感じるか。 ○ 権八は何をしたか。また、なぜ、そのようなことをしたのか。 ○ 二人の性格や関係を表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 二人の性格や関係は、どのように書かれているのか。 ○ 卜書きからどのようなことが想像できるか。 ○ 二人の性格や関係を表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	<p>○ 二人の性格や関係は、どのように書かれているのか。 ○ 二人の性格や関係を表すためには、どのように音読すればよいか。 （音読）</p>	

○ 単元指導計画 (13 時間)

段階	主な学習活動及び学習内容 ※吹き出しは予想される子どもの問題意識や目的意識	教師のかかわり	具体的な評価規準
生 み 出 す (2)	<p>1 単元のゴールの姿から単元のめあてを設定する。 &lt;1時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身に付けたいことばの力</li> <li>◇ つながりを考えながら想像したことを表す力</li> <li>○ 単元のめあて</li> </ul> <p>つながりを考えながら想像したことを「きやく本音読げき」で表そう。</p> <p>脚本って初めてだな。よし、これからつながりを考えながら、場面の様子や人物の気持ち等を想像して音読劇で発表するぞ。</p> <p>2 学習計画を立てる。 &lt;1時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材を使った音読劇とその感想</li> <li>○ 学習計画の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ある演劇の一部分を映像で視聴させた後、その映像を基に教師が書き起こした脚本を提示し、感じたことを発表させる。それにより、脚本の特徴、場面・台詞・ト書きのつながりの大切さに気づき、自分たちも脚本で表していきたいという学習意欲を高められるようにする。</li> <li>○ 単元のゴール「きやく本音読げき」を設定し、グループごとに脚本を音読劇で表すことを確認させることで、単元をとおした目的意識をもてるようにする。</li> <li>○ 並行読書を行い、関連図書の音読劇を行うことを確認させることで、教材と関連させながら目的意識を高められるようにする。</li> <li>○ 教材を使った音読劇に挑戦し、その感想を書かせることで、学習前のことばの力の実態と、本単元への思いや考えを把握し、それを基に学習計画を設定できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 脚本の音読劇を行うことに関心をもち、場面・台詞・ト書きのつながりを考えながら場面の様子や人物の気持ち等を想像して、脚本を読むもうとしている。(関・意・態)</li> </ul>
挑 む (7)	<p>3 新出漢字と語句の意味を確認し、教材の内容や構成の大体を捉える。 &lt;2時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新出漢字と語句の意味</li> <li>○ 教材の内容や構成の大体</li> </ul> <p>第4場面が、このお話で大事なところだと思ふよ。ここで、権八の気持ちや二人の関係が変わった気がするぞ。</p> <p>4 場面の様子や人物の気持ち等を想像し、音読で表す。 &lt;5時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 藤六と権八の性格、関係(2)</li> </ul> <p>藤六と権八はどんな人物かな。よし、そのことを読み取って音読にも生かしていくぞ。</p> <p>○ 権八の気持ちの変化(1)</p> <p>藤六やうるしに対する権八の気持ちが変わったような気がするよ。つながりを考えながら、権八の気持ちを想像して音読で表そうぞ。</p> <p>○ 最終場面の藤六と権八(1)</p> <p>第1場面の二人の関係と、どう変わっているのかな。よし、その違いが分かるように最終場面を音読で表していくぞ。</p> <p>○ 作品全体の構成と描かれている人物像(1)</p> <p>この作品のおもしろさを伝えるために、作品全体の構成、人物像から、各場面をどのように音読で表せばよいか、もう一度考えて音読するぞ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新出漢字や語句の意味を確認させることで、文章の内容を理解するのに必要な語句を増やすことができるようにする。</li> <li>○ 脚本の登場人物、場面設定、時間の流れ等を確認させることで、教材の内容や構成の大体を捉えることができるようにする。</li> <li>○ 毎時間、捉えた内容を基にした音読を位置付けることで、脚本を音読劇で表そうという、単元をとおした目的意識をもてるようにする。</li> <li>○ 身に付けさせたい資質・能力に迫るため、次のような言語活動に取り組んでいく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、学習問題に対する自分の考えをもたせ、そこから前半に話し合いを行う。それを基に、後半にグループで一つの脚本用紙に声の強弱や読む速さ、ト書き等を書き込ませながら音読の仕方を確認していく。</li> <li>・ グループで藤六役と権八役を分担し、役割を交代しながら音読させることで、内容を捉えた音読の仕方を全員が共有できるようにする。</li> <li>・ 終末で数ペアの音読を全体に紹介し感想を伝え合わせたり学習の感想を書かせたりする。そうすることで、つながりを考えながら想像したことを表現できるようになったという実感をもてるようにする。</li> </ul> </li> <li>○ 「挑む」段階の最後に、各場面の挿絵、人物の性格や関係を板書に整理し、そのことを意識して音読させることで、作品全体の内容を捉えた音読ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面の様子や藤六と権八の気持ち等が表れている言葉を調べたり、指示語が示す内容を考えたりしている。(言)</li> <li>○ 場面・台詞・ト書きのつながりを考えて、場面の様子や権八と藤六の気持ち等を想像して音読で表している。(読)</li> </ul>
生 か す (4)	<p>5 教材で音読劇を行う。 &lt;1時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「きやく本音読げき①」</li> <li>(※木竜うるし)</li> </ul> <p>よし、グループで選んだ場面を、つながりを考えながら、読み取った場面の様子や人物の気持ち等が表れるように音読劇で表そうぞ。</p> <p>6 関連図書で音読劇を行い、感想を伝え合う。 &lt;3時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「きやく本音読げき②」</li> <li>(※関連図書)</li> <li>○ 感想の交流</li> <li>○ 学習後の感想</li> </ul> <p>他の脚本でもつながりを考えながら、読み取ったことを想像して音読劇で表すことができたぞ。脚本の音読劇は、物語とは違ったおもしろさがあることが分かったぞ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの音読をふりかえり、グループで選んだ場面を音読劇で発表させることで、つながりを考えながら、場面の様子、権八と藤六の気持ち等について想像力を働かせて表せるようにする。</li> <li>○ 並行読書してきた関連図書について、同じように音読劇で発表させることで、身に付けたことばの力を確かなものにするようにする。</li> <li>○ 発表後に感想を伝え合わせることで、グループごとの感じ方、考え方や表し方の違いに気づき、脚本を表現することのおもしろさを感じ取り、他の脚本への読書意欲を高められるようにする。</li> <li>○ 第2時の感想と学習後の感想を比較させることで、学習をとおして場面の様子や人物の気持ち等を表現できるようになったという実感を味わうことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面・台詞・ト書きのつながりを考え、場面の様子や人物の気持ち等を想像して音読劇で表している。(読)</li> <li>○ 指示語が指している内容を捉え、音読劇で表している。(言)</li> <li>○ 脚本に関心をもち、その他の脚本を読んだり表現したりすることへの意欲を高めている。(関・意・態)</li> </ul>